

演習 刑事訴訟法 2024年3月号参考文献

一橋大学教授 緑 大輔

*学習者が比較的容易に手にとることができる文献を中心に掲げる（一部、やむを得ず論文集等を掲げる場合がある）。

1. 違法収集証拠排除法則概説

- ・川出敏裕『判例講座刑事訴訟法 捜査・証拠篇〔第2版〕』（立花書房，2021年）491-499頁。
- ・宇藤崇ほか『刑事訴訟法〔第2版〕』（有斐閣，2018年）416-424頁。
- ・酒巻匡『刑事訴訟法〔第2版〕』（有斐閣，2020年）507-519頁。
- ・池田公博=笹倉宏紀『刑事訴訟法』（有斐閣，2022年）249-252頁。
- ・田淵浩二『基礎刑事訴訟法』（日本評論社，2022年）228-231頁。
- ・吉開多一ほか『基本刑事訴訟法II 論点理解編』（日本評論社，2021年）218-227頁。
- ・斎藤司『刑事訴訟法の思考プロセス』（日本評論社，2019年）370-381頁。

2. 違法収集証拠排除法則の論拠と基準

- ・古江頼隆『事例演習刑事訴訟法〔第3版〕』（有斐閣，2021年）470-489頁。
- ・井上正仁『刑事訴訟における証拠排除』（弘文堂，1985年）356-406頁。
- ・稲谷龍彦「証拠排除法則について」『井上正仁先生古稀祝賀論文集』（有斐閣，2019年）679頁以下。
- ・池田公博「証拠排除の主張の訴訟法上の位置付け」法時95巻12号(2023年)26頁以下。
- ・南迫葉月「司法の廉潔性概念について」法時95巻12号(2023年)19頁以下。
- ・守屋克彦編著『刑事訴訟法における学説と実務』（日本評論社，2018年）166-181頁[半田靖史]。
- ・吉戒純一「判解」ジュリ1585号（2023年）111頁以下
- ・井上和治「判批」令和4年度重判解（2023年）160頁以下。
- ・吉開多一「判批」刑ジャ74号（2022年）225頁以下。
- ・川島享祐「違法収集証拠排除法則の比較法的考察」法時95巻12号(2023年)40頁以下。
- ・緑大輔「違法収集証拠排除法則の論拠の機能」法時95巻12号（2023年）11頁以下。

ステップアップ

偶発症の発生リスクは、捜索時の住居の管理権の制約や差押え時の占有の剥奪のように不可避免的に生じる制約・侵害と異なり、制約・侵害の発生は確率に左右される。このような事象も令状審査の対象（実体的要件）になるのかという問いである。参考になる裁判例として、報道機関に対する差押えについて説示した最決平成2・7・9刑集44巻5号421頁等は「将来の取材の自由が受ける影響」も比較衡量の対象としていることを挙げることができる。この判例によれば、将来の不利益の発生リスクも考慮することはありうる判断だと思われる。なお、内視鏡検査を令状によって行うことが強制処分法定主義に反しないか否かについても、検討してみたい。